

生かそう憲法

守ろう九条

養正九条の会

10年1月9日 No.6



みかげ

〒606-8205

事務局：左京区田中上柳町33

養正市住21棟506号

事務局長：山中 勇次

携帯電話：090-9048-6265

E・メール：yamanaka.yuuzi@lime.plala.or.jp

あけまして
おめでと
う
あけまして
おめでと
う
あけまして
おめでと
う



平和が一番

=目標をやり遂げよう=

署名 1,000筆

会員 100名

憲法リーフ・平和ティッシュを配布し、30筆の署名とカンパ100円が集まりました。



次回から定例宣伝の時間が変わります

午後3時30分から午後4時30分

「グレース」田中前（現地集合）

1月16日（土）・2月6日（土）

3月6日（土）・4月3日（土）です

12月「グレース」田中前宣伝

署名30筆、カンパ100円集まる

12月5日（土）に定例の街頭宣伝活動をおこないました。



今回は2回目で、会員6人が参加しました。「改憲」の企みをあきらめさせようと、底冷えのするなかで、元気よく「憲法改悪反対の署名にご協力を」と訴え

新春から元気よく！ 1月は16日（土）

3時30分～4時30分

（現地集合）

今年最初の「養正九条の会」宣伝行動日です。今年、「国民投票法」が施行される年です。「憲法改悪反対」署名を広げ・憲法リーフ・平和ティッシュの配布・ハンドマイクによる宣伝・のぼり・プラスター持ちなど多数の会員の協力が必要です。新春初の宣伝を楽しく賑やかに行うため、多くの会員の参加をお願いします。

注）宣伝終了後参加者が集まり、集計と署名活動の意見交換会を開きます。（第二中央病院予定）

小沢流「国会改革」

=解釈改憲への「布石」=

危険な法制局長「排除」

民主党は、内閣法制局長官を「政府特別補佐人」

から排除することを「国会改革」の方針の重点に置
いています。人事院総裁や公正取引委員長などは「政
府特別補佐人」のままです。鳩山首相は「政府による
憲法解釈についても内閣が責任をもって行う」と
しており、これまで政府の憲法解釈を担ってきた内
閣法制局の解釈にしばられることなく、「政治主導」
で決めていく狙いと一体です。

多国籍軍への参加

小沢氏は、「理想的には、憲法9条を改定し、3項
で国連活動への参加を認めるというもの。3項がなく
ても国連軍への参加は国権の発動ではない、だから
武力の行使も9条に反しない立場だ。多国籍軍は
正規の国連軍ではないが、現実政治には応用問題が
あり、国連憲章を準用する形で解釈してよいという
考えだ」。

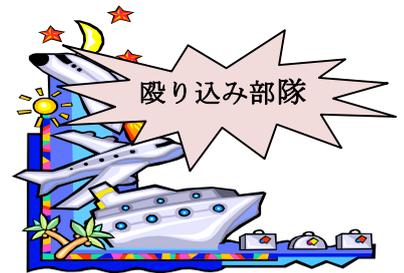
自民党も出来なかった「解釈改憲」

元政府高官の一人は「国連軍はつくられたことも
ないし、近い将来つくられる見通しもなく、いまま
だ現にあり、これからもありうるのは多国籍軍だ」
と指摘し、現実の問題になるのは多国籍軍への参加
問題だと強調します。また「多国籍軍については加
盟各国に派兵を義務付ける決議がなされたことがなく、
実力組織を送るかどうかはあくまで各国の意思
決定の問題。9条との関連では専守防衛である以上、
集団的自衛権の行使と同列に論じる問題だ」と述べ、
小沢流「解釈変更」は無理だとします。自民党も出
来なかった「解釈改憲」に大きく踏み出す構えが示
されていることを直視する必要があります。

自民党の石破茂政調会長は11月26日、都内で
講演し、**米軍普天間基地の「移設」問題について**、
「代替施設をどこにするかを、沖縄の世論で決める
などということ絶対にやってはならない」と述べ、
県民世論を無視する姿勢を示しました。

石破氏は、東アジア地域の安全保障環境がよくな
っていないと強調した上で、「産廃処理場をどこに
するかと海兵隊をどこに
するのかということは
話が違う」と発言。

「海兵隊は『その場』
にすぐに展開して事態
を早期に收拾するのが
役割だ」と述べ、**＝殴
り込み部隊＝**の海兵隊
が沖縄に存在することが必要だと主張しました。



長野県下諏訪町

九条署名住民の過半数達成

長野県下諏訪町で、「しもすわ九条の会」が、憲法
9条を守る「県民過半数署名」を1万1579人分
集めました。政府与党が、法制局長官の答弁を制限
して閣僚による解釈改憲を次期国会で提出する方向
の中、同会は「平和憲法を守り活かす大きな世論を
草の根からつくっていかう」と決意しています。

同会代表世話人らは、太平洋戦争の開戦記念日に
あたる12月8日同町役場で記者会見し、2005
年4月に会を結成して以来とりくんできた署名が
「目標の1万を超えた」と報告しました。

積み上げられた署名を前に、歌人の光本恵子さん
(64)は、口語自由律短歌が戦前弾圧されたことにふ
れ「自由にものが書け、歌が詠める社会を守りたい」
と語りました。

元町長、青木健一さん(84)は「選挙の票にしたら
誰もとったことのない1万以上の署名。町民の平和
への強い思いを確信しました。

青木さんは、元国鉄労働者で旧社会党员。「護憲は
信念」といいます。



社民党⇒小沢発言で態度一変

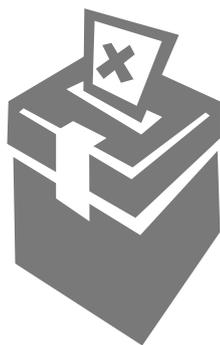
社民党が民主党の小沢幹事長主導でまとめた同党
の「国会改革」案を了承したことは、同党のこれま
での態度からいっても説明が付きません。

小沢氏が11月30日の記者会見で「参院、衆院
という二つの大きな選挙で、社民党には選挙区の割
り当てやら積極的に協力してきたつもりだったけれ
ども、(改革草案への返答が)ナシのつぶてというの
は非常に残念だ」と恫喝まがいの発言をすると、社
民党は態度を一変。7日の与党幹事長・国対委員長
会談では、それまで批判していた内容を盛り込んだ
民主党案を受け入れ、今年1月召集の通常国会での
国会法改定案の提出・成立に合意しました。

今年5月に「国民投票法」施行

今年5月18日に『国民投票
法』が施行され、いよいよ改憲
手続きができる政治情勢になり
ます。

憲法9条京都の会は昨年9月
15日、「9条京都のつどい」を
開き、ノーベル賞物理学賞受賞
の益川敏英氏代表世話人は、
「憲法9条を変えると提起され
れば、燎原の火のように反対の
運動が広がる、と以前は考えて
いたが、その考えは間違いでした。『改正案』が
提起される前に『憲法を守れ』という声を津々浦々
に響かせ、『改正草案』を出すのをあきらめさせるよ
うな運動を展開しようではありませんか」とあいさ
つしました。



県民世論で決めるな

自民・石破氏が暴言